

# 令和6年(2024)度 自己点検・自己評価報告書

令和7年2月20日  
パナソニック健康保険組合立  
松下看護専門学校

学校の教育理念・目標	令和6年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p><b>【教育理念】</b> パナソニック健康保険組合の人間尊重の理念を基本とし、地域住民や健保の被保険者の健康を高め、生命に奉仕できる看護師を育成する。</p> <p><b>【教育目的】</b> 人びとの生命と健康を守るため、看護の本質を見極め、三重の関心を注ぎつづけることのできる看護実践者の育成を目的とする。 *目指すべき人材像 人びとがよりよく生きる。そのために、三重の関心を注ぎつづける</p> <p><b>【ディプロマポリシー(専門士授与方針)】</b> Ⅰ. 人間尊重に基づいた看護を実践する力 Ⅱ. 根拠に基づく個別的な看護実践をする力 Ⅲ. 心身の状態をセルフマネジメントする力 Ⅳ. 看護師として成長し続ける力</p>	<p><b>1. 教育活動の進展、学生支援の強化</b> 1-1. 改定カリキュラムによる教育内容・方略の発展により看護実践能力の育成強化(臨床判断能力習得・地域貢献授業の推進等) 1-2. 自立・自律した医療者・看護師へ向けての学生支援の進展 1-3. みらいWGでの取組みを中心とした看護部との教育連携の発展(基礎教育・卒後支援等) 1-4. 教育の質の維持にむけた教員の採用及び次世代育成</p> <p><b>2. 受験生確保対策の充実</b> 2-1. 入試日程の早期化 2-2. 広報活動の継続と拡大</p> <p><b>3. 数値目標</b> 3-1. 受験者数 90名 3-2. 看護師国家試験合格率 100% 3-3. 卒業率 90%</p>	<p>1. 教育活動の進展、学生支援の強化 令和4年度の省令改正による変更カリキュラムの3年目が終了した。 母体病院や地域の協力を得ながら、早期からフィールドワークやボランティア活動を実践し、学生自らの経験とそれを繰り返すことを繰り返し、臨床判断能力の基礎となる力は認められるが、数量的な評価での確認をすることが課題である。 学年が進むごとに具体的な指示が不要にはなっているが、多様な社会背景の学生に対する個別的な支援が必要である。 みらいWGでは入学希望者、在校生、卒業生のターゲット別に具体的な課題の取組みを進行している。 4月から常勤、および非常勤教員が1名ずつ、3月から常勤1名が入職。On-JT、Off-JTにて当校の看護、教育について学習を行っている。</p> <p>2. 受験生確保対策の充実 入試時期の早期化を実施。広報活動はSNS(インスタグラム)にて、投稿動画の再生回数が49万回、その他14動画が1万回以上の再生。オープンキャンパス(OC)参加動機つながる一因となっている。OCと同時開催で母体病院の見学会を再開し、継続教育の特徴のアピールとなり、受験動機につながっている。OC参加者の受験率は54.7%(令和5年50%、令和4年45%)であった。</p>	<p>新カリキュラムによる教育から3年を経過し、急性期病院である松下記念病院を中心として、地域で活躍しつづけることができる看護師の育成の継続は最重要課題である。卒業生や新人教育担当者などから得るデータも踏まえ、より現状に即した教育内容や教育方略の見直しと進展をはかる。また、学生確保対策について、母体病院と協同で受験生確保にあたっているが、大阪府下の専門学校で非常に厳しい状況が浮かび上がってきており、一校の努力で改善する状況ではなくなっている。 当校としては引き続き、地域に密着した魅力ある学校づくりを推進し、①松下記念病院との連携を含めた特色のある教育内容の発展及び見える化、②教員の教育力の維持向上のための採用と育成、③国家試験高合格率の維持、④専門学校としての将来構想など、学校の魅力を高めつつ、その</p>

		<p>3. 数値目標 受験者総数は71名(前年度 85 名) 第113回看護師国家試験合格率 91.7%(全国平均 87.8%) 49期生;卒業率 92.5%(前年度 90%)。</p>	<p>アウトプットに尽力し、同時に専門学校離れに歯止めをかけられるような対策を、他校と協同して打ち出していく必要があると考える。</p>
--	--	---	--

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【理念・目的・育成人材像】</b></p> <p>本校は、昭和48年に准看護師の育成をめざして松下高等看護学院として設立し、その後、看護師不足に対応するために、看護師養成を開設した学校であり、開校以来一貫して、地域社会の医療の向上のために、看護師の養成を教育理念、教育目的にあげ、優秀な看護師の育成をめざしている。</p> <p>育成人材像は、目指すべき人材像とともにディプロマポリシー(専門士授与方針)として標記をし、教育理念、教育目標とともに明文化して周知に努め、その実現に向けたカリキュラムポリシー(教育方針)に基づいて教育課程を編成し、教育活動に取り組んでいる。</p> <p>教育目標・ディプロマポリシーは、時代の状況に応じて常に見なおしをはかり、これらを文章化し、教職員をはじめ、学生・保護者などにも周知している。さらに、来校者にも理解をしてもらえるように、校舎の壁にも掲示している。</p> <p>3～5年後の中期的構想としては、最先端の教育活動を実施する学校としての周知をはかるとともに、多様化する医療の現場においても、看護実践力を伴った看護師を育成することである。学校や松下記念病院のある守口市を中心とした地域や多職種との連携・協働など、より一層取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念は、「パナソニック健康保険組合の人間尊重の理念を基本とし、地域住民や健保の被保険者の健康を高め、生命に奉仕できる看護師を育成する」であり、教育目的は「人びとの生命と健康を守るため、看護の本質を見極め、三重の関心を注ぎつづけることのできる看護実践者の育成を目的とする」としている。目指すべき人材像は、「人びとがよりよく生きる。そのために、三重の関心を注ぎつづける」とし、4 カテゴリー9 項目のディプロマポリシーと共に挙げている。</li> <li>・本校の教育活動の特色は、カリキュラムポリシーに明示しているように、ナイチンゲールの提唱する看護(変わらない看護)を通して、学生自身の看護観を育成することに加え、臨機応変に看護実践する力を身につける事である。そのために、学年を超えた学び合い、地域包括支援を視野にいれた授業、可能な限り臨床場面を再現した授業などを積極的に取り入れている。また、全ての看護学領域で健康(保健)と健康障害の両方が学べるように構築し、臨地実習においても地域と病院の両方が体験できるようにしている。また、病院実習は、主として同組織内の松下記念病院で実施し、急性期医療から緩和ケア・地域包括支援まで、幅広く学習できるようにしている。さらに、産業看護や一次予防の実際を体験するために、健康管理センターでも実習を行っている。</li> <li>・今年度は、R4 年度からスタートしたカリキュラムの評価の取り組みとして、ビジョンミーティングを実施。教職員個々の強みや学校・地域にどう貢献したいのかを共有し、お互いの強みを活かした教育実践について語り合った。そして、学生の社会背景(大学</li> </ul>

志向、専門学校生の偏差値の低下など)をふまえ、組織としての育成人材像を明確にすることで、今後の教育活動の礎となる教育目的(ビジョン)を共通認識することができた。

- ・同組織内に病院をもつ看護専門学校の強みを活かし、松下記念病院との組織一体化運営の強化に向けた教育連携プロジェクトである“ワーキンググループみらい”を立ち上げ、学校と病院が連携し、より質の高い看護教育への協同を推進している。

## 基準2 学校運営

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【運営方針】</b>            運営方針については、地域住民や健康保険組合の被保険者の健康や生命に奉仕できる看護師の育成にむけて、一貫した方針を挙げている。</p> <p><b>【事業計画】</b>            パナソニック健康保険組合 事業計画役員審議に基づき、学校長が策定した事業計画案は、理事会の審議を経て組合会の承認を受けている。学校長は、事業計画に基づいた事業運営を推進するとともに、月次の実績と事業計画をつねに対比検討し、部門責任を遂行する。学校長が示した運営方針と取り組むべき課題を受けて、事業計画は課題達成に向け KPIを設定し、重点施策実施項目を決めて取り組んでいる。年度末には、事業報告書を作成し、達成状況を明らかにするとともに、翌年度の運営方針・事業計画は、年度末の職員会議で全職員へ周知している。</p> <p><b>【運営組織】</b>            教育理念、目標の達成を目指した学校運営を行うために、組織図の見直し、諸規定の改廃、会議・委員会の開催などを行いその整備に努めている。            今年度、松下記念病院へ組織統合し、看護人材の育成に関して、さらなる連携を深め、看護人材の育成に努めていく。</p>	<p>・パナソニック健康保険組合は、各種の保険給付に加えて疾病の予防と健康の保持増進を図るため、各部門の事業を通じてパナソニックグループ従業員(被保険者)とその家族(被扶養者)の健康福祉を向上させるとともに、地域社会にも貢献している。また、「健康を高め生命に奉仕する」ことを使命として、先進的な医療、積極的な健康づくりや疾病予防、介護事業など多彩な事業を展開。多くのスタッフがパナソニックグループと地域の人々の「健康」を支えている。</p> <p>・また、組織としてリスクマネジメントを行うなど、コンプライアンス体制を整備している。</p> <p>・責任者は医師である学校長(松下記念病院院長兼務)であるが、教育の責任者は看護教員の資格と経験のある副学校長である。また、全教員が専任教員要件を満たし、事務も常勤 2 名体制をとっている。さらに、卒業生をはじめとした非常勤を雇用し、ティーチングアシスタントや教務事務の役割を担っている。            組織統合により、病院のイベント(災害訓練やオープンホスピタルなど)への学生の参加機会が増えた。また学校の学生募集に対す</p>

### 【人事・給与制度】

設置者であるパナソニック健康保険組合の規定に基づき適切に運営している。また、採用に関しては、同組織内での異動も含めた対応が行われ、適切な人員を確保している。しかし、徐々に進む定年退職者の増加に伴う、看護教員の採用が重要な課題である。

### 【意思決定システム】

本校の学校運営は、合議制をとり透明性を確保し、円滑に機能するとしていることから、意思決定システムは適切であると評価する。

### 【情報システム】

システムのメンテナンス及びセキュリティ管理についてはパナソニック健康保険組合の中にある「情報システム」部門と連携し、各種のシステム化により、教職員の勤怠・フォルダの共有化など業務の効率化を行っている。また、学生情報(個人情報)の機密性を重視し、セキュリティ体制を考慮したシステムを導入して管理している。

今年度、統合型スクールマネジメントシステムを導入した。学生データの管理など一元化し、安全で効率的な学校運営のためにDX化を促進していく。

る病院側の協力体制(オープンスクール参加者の病院見学希望者の受入れなど)も、病院—学校間のみならず、看護師—学生間の相互理解の機会となっており、一体運営につながっていると考えられる。

・看護教員にもラダー制度に基づいて人事や給与評価が行われている。また、「自分のキャリアビジョン」に応じて部署を移動できるキャリア面談も実施されている。看護教員の採用は引き続き重要課題である。

・学校運営会議及び学務会議を学校での決議機関として置き、学校全体に関わることは教職員会議、教育に関する事は教員会議などで、意思決定をしている。

・定期的なソフトのバージョンアップやパソコンの入れ替えにより、最新のセキュリティを維持しているとともに、業務のICT化により効率化をはかっている。

・統合型スクールマネジメントシステム導入にあたっては、成績、健康管理など個人情報としては最もセキュリティが高いレベルの情報を管理する必要があるため、関連部署との調整に多くの時間が必要であったが、2024年末ようやく契約が締結された。1月末からの部分稼働、2025年度からの全面稼働に向けて、現在進行中である。

### 基準3 教育活動

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【目標の設定】</b>            教育課程の編成において、教育理念・目的・目指すべき人材像(4 カテゴリー9 項目のディプロマポリシー)を明文化している。教育目標達成のため、シラバスにはカリキュラム構造として当校独自の分野設定についての考え方や各科目概要など、学生に伝わるよう明示している。また、分野・ディプロマポリシーとの連関や各科目の位置づけ、学習の流れを示したカリキュラムデザインを作成し、入学から卒業までをイメージできるようにしている。令和4年の省令改正に伴う教育課程では、3年間で106 単位、3050 時間の全単位取得をもって卒業要件としている。ナイチンゲール看護論を教育の基盤とし、社会の現状と多様な医療現場に即したカリキュラムとして構築しており、松下記念病院を中心とした地域に根差した看護師育成を実践している。現教育課程を実践し、3 年が経過したため、今後は、学生の状況を踏まえた教育課程の評価を実施していく必要がある。</p> <p><b>【教育方法・評価等】</b>            授業は、単に知識・技術を強化するだけではなく、自分で自分を成長させる人になることを目標に掲げている。意志ある学びを実現させるプロジェクト学習など、対象の状況や状態への判断能力を強化するため、同組織内の看護師とともにシミュレーション教育などにも取り組み、実践的な学びの充実を図っている。また、経験や地域から学ぶ事を大切に、フィール</p>	<p>教育課程の編成及び実施方針として、次のことを重視している。</p> <p>(1)本校は、社会に貢献できる看護師を育成するという教育理念・目的を持った学校であることから、保健師助産師看護師養成所指定規則及び指導ガイドラインに則った教育課程編成を行う。</p> <p>(2)初学者である学生を実践者として臨床現場へ送り出すことを重視し、ナイチンゲール看護論を基盤とし、三重の関心を重ねて注げる人材の育成を目指す。</p> <p>(3)教育理念や教育目標の達成を意図し、3 学年での交流を大切にしながら編成している。また、過密カリキュラムにならないよう配置している。</p> <p>(4)実践的な学びを支援するために、臨床との連携を密にし、母体病院である松下記念病院の医師や看護師に講義を依頼し、専門性を重視した教育を行っている。臨地実習においては、病院、介護老人保健施設、グループホーム、訪問看護ステーション、健康管理センター、こども園、特別支援学校、産前産後ケアセンター、助産院など、多様な施設を活用しながら行っている。</p> <p>・令和4年度の省令改正による変更カリキュラムの3年目が終了した。ナイチンゲール看護論を基盤に、看護の対象者とかかわることでは看護を学ぶことはできないという考えのもと、学生が実践した看護の経験とそれをふり返ることを繰り返し、看護実践能力の獲得を目指してきた。領域別実習や統合実習において、再実習となった学生はいたが、不合格者はいなかった。</p> <p>・今年度、関西学生研究大会、日本看護学校協議会学会で、学生</p>

ドワークを多く取り入れた授業構築をしている。実習においては、1年生の早期から、訪問看護ステーション・外来部門などで実習を行い、地域での看護を学ぶことを取り入れている。さらに、3年生の最後の実習では、1年生を支援しながら看護実践を行う実習を取り入れ、双方が学びあうことで成長することを目指している。

教科終了毎に、教育内容や教育方法について、学生へのアンケートを実施するとともに、年度末には講師会を開催し、学生や教育の現状について共有し、よりよい教育に向けた改善を心がけている。また、日常的にも講師とコミュニケーションを行い、学生の現状把握にも努めている。その中で、学生の学習態度や学習意欲について疑問視する声が多く聞かれている。入学生の偏差値は低下しており、コロナ禍において、他者との関係の築き方も変化している。そのため、基礎的な学習習慣の獲得、教員と学生、学生同士など、相互に学びを促進する関係構築の重要性の理解やその環境づくりが課題となる。

が実習で受け持った対象者の症例を発表している。また、学内でも研究発表や看護観の共有を行い、看護実践能力に必要な臨床判断の基礎となる“気づき、思考・判断、看護実践”を行っている学生の姿を確認できた。それは、フィールドワークを早期から取り入れ、様々な年代にある看護の対象者の暮らしやその中での思い、健康的な生活に対する関心や知識が充実しているからだと判断できる。

・母体病院との臨地実習指導者会、講師会を通して、学生の学習状況を共有し、病気の捉えに関する知識や判断では、講義内や実習時の指導に要する量の多さや質の困難さに対する意見が散見される。社会的背景も含めた入学生像の変化を理解するとともに、教員や指導者の力量がより求められる。学内での講義内容や方略、臨地での実習形態や内容について評価、改善していく必要がある。

・松下記念病院産科が閉科となったが、新規実習施設を開拓し、産婦人科クリニックでの実習やシミュレーターを使用し、学内実習を行うことで学生の学びが深まるように実施した。

・感染症への懸念は継続しており、罹患する学生も発生したが、感染予防対策の徹底によりクラスターの発生は起こっていない。実習先からの要請により実習継続が困難となった際、実習編成の変更や学内実習への切り替えを行い、学びの差異が最小限になるよう学びを共有し、学生や指導者の協力を得ながら学内実習を実践した。

・講師会・外部実習指導者会を継続しており、学生の現状を共有するとともに、次年度に向けた具体的な改善点について語り合う場を設けた。

・学生の学習への取り組みについて、これまで以上に自律を促す取り組みを実施する必要がある。そのため、入学前の早期段階か

**【成績評価・単位認定】**

学則、および履修規定に則り実施している。

**【資格・免許の取得の指導体制】**

卒業に向けての単位習得のための学習支援をおこないながら、1年次からの国家試験対策を取り入れ、定期的な模擬試験で学力を把握し、学習支援を行っている。その結果、過去10年間の国家試験合格率は、99%となっている。

**【教員・教員組織】**

看護教員要件を満たす教員を定員以上に確保し、看護や教育の本質を継続的に探究するとともに、教育力の強化や資質向上のために学会・研修会などへの参加を促す。さらに、他の組織の研修会講師などへの協力も推進することで視野を広げ、より柔軟で質の高い教育を実践できるよう努力している。また、毎年、授業研究を実施し、教育内容及び方法の充実に努めている。

ら学習習慣の定着を目指し「入学前学習ツール」を使用しているが、その結果を入学後の学習に活かせるよう活用していくことが必要であるとともに、教育内容や教育方法を含めた教育課程の評価を行うことが課題である。

・左記のとおり、実施した。

・大手の国家試験予備校と連携するとともに、各学年から国試対策委員を自薦選出し、各学年に応じた模擬試験を実施している。3年次には各領域担当教員による講習会を行うとともに、卒業生による経験談や講習会等も開催し、方々からの協力を得ながら学習支援を行っている。今後の課題として、ICTツールを積極的に活用し、実習と関連させながら効果的な学習時期にも配慮できるよう実践していく。

・徐々に進む定年退職教員の増加に伴い、令和6年度に1名の看護教員を新規採用し、副学校長・教務主任・実習調整者を含み全12名の看護教員で構成されている。

・学会や研修会への参加では、看護科学研究学会(関西支部)3回/年、日本看護学校協議会主催の新任看護教員研修会1名、中堅教員スキルアップ研修1名、教務主任養成講習会1名の参加、それ以外にも教員各自の希望に沿い、学会や研修会への参加を行い、教員としてのスキルアップを図っている。

・カリキュラム会議を1回/月実施し、各領域での活動内容や個々での研修内容を共有し、教育実践力の向上を目指している。

・本校の教育理念や教育内容について理解でき、教員同士が互

	<p>いの授業から学びあえるよう環境を整え、教育の質の維持・向上に向けた育成に取り組んでいる。また、自己を俯瞰し、具体的な目標や課題をもって自己成長に繋がられるよう、看護教員に求められる能力・資質について明示した「看護教員ラダー」を作成し、導入している。今後はラダー導入後の評価をしていくことが課題となる。</p>
--	---

## 基準4 学修成果

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【就職率】</b>            本校は、地域住民やパナソニック健康保険組合の被保険者の健康を高め、生命に奉仕できる看護師の養成を教育理念にあげていることから、看護師国家試験に合格し、病院をはじめとする医療機関への就職率は学修成果の1つと考え、就職率は100%を目指す。            2年時早期から就職ガイダンスをはじめ、自分の「なりたい看護師像」を実現するための就職活動のアナウンスをしている。</p> <p><b>【資格・免許の取得率】</b>            国家試験担当者を中心とし、各学年担任との連携において、国家試験対策を1年次より行っている。学習成果として、模擬試験を行いながら成績の分析を行い学生一人一人に対して学習面・精神面のサポートを継続的に行っている。            3年次は4月から国家試験オリエンテーションや個別面談を行い継続的な学習支援とともに業者・教員による国家試験対策授業、模擬試験、学校の開放を行っている。また、入学前教育だけでなく、入学後にもeラーニング教材など、学生の主体</p>	<p>・パナソニック健康保険組合の同組織内の病院である松下記念病院より毎年、就職説明会が行われている。松下記念病院の概要、処遇説明、教育体制などの説明や現職の看護師による体験談などを説明してもらい、就職に対するイメージがつくような取り組みを行っている。また、学生からの要望を確認しながら、業者による就職ガイダンスを2年次の5月、11月に実施し、在学生である3年生や卒業生からの就職支援を個別でも行っている。</p> <p>・今年度は12月に松下記念病院の見学会を開催した。実習場所ではなく、就職先であることを意識して病院を知ってもらう意図で実施し、31名が参加した。</p> <p>・R6年度の就職率も100%である。</p> <p>・松下記念病院における卒業後定着率の向上を目指し、看護基礎教育と継続教育の継ぎ目のない教育を実施し、松下記念病院看護部との教育連携を継続している。</p> <p>・看護師国家試験合格率は、過去10年以上、常に全国平均を上回っており、R6年度も、100%の予定である。R6年度、1年生に向けて、2年生による講義の受け方やノートの取り方、学習方法の伝達講習を実施した。</p> <p>・低学年(1・2年生)へは、模試の振り返りに重点をおきながら対策を強化した。</p> <p>・放課後学習会の時間を活用し、学生主体で国家試験対策を行っている。</p> <p>・今年度、3年生では、国家試験対策としてチューター制度を導入</p>

<p>的な学習習慣の強化となるよう活用している また、外部業者と提携し、1年次には解剖生理学、3年次には国家試験対策の集中講義を行っている。</p> <p><b>【卒業生の社会的評価】</b> 松下記念病院から卒業生の学会活動や発表、講演、執筆活動などの情報を得られた。 R5年度は開校50周年であったため、記念式典を開催し、国際看護や講師として活躍している卒業生がいることがわかった。</p>	<p>し、学生の状況に合わせて適宜面談と学習支援を行った。 ・来年度は、国試対策アプリを導入し、学習支援を行っていく予定である。</p> <p>・卒業生の活躍を本校ホームページで紹介、オープンキャンパスでは卒業生(3回/年程度)を招き、学校紹介と現在の活動について伝えてもらっている。 ・卒業生の動向について情報収集、データ化は準備中であり、評価をするまでに至っていない。病院看護部とも連携し、卒業生の動向から社会的評価ができるシステム作りが必要である。 ・今年度、新カリキュラムの【基礎と臨地をつなぐ看護】のなかで基礎看護教育と臨地との乖離をなくすことを目的に、臨地の先輩看護師との座談会を実施した。実施後の学生アンケートでは、好評であった。 ホームページに、ホームカミング日の卒業生の動向がわかるようにしている。</p>
---	--

## 基準5 学生支援

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【就職など進路】</b>            新卒看護師の採用活動が早期化していることから、2年進級と同時に就職に向けての支援を開始している。担任・副担任が主となり、学生の希望や適性をふまえた進路相談や就職指導を実施している。学生からの相談に応じ、将来の目指したい看護師像に向けた進路に支援を実施している。            2年次には同組織の松下記念病院の担当者による就職ガイダンスや外部委託会社による就職セミナーなどを開催し、就職活動への支援・指導を実施している。            また、松下記念病院以外の就職案内や進学(助産師・保健師・大学編集など)のパンフレット等を自由に閲覧できるようにしており教室内にファイルを設置している。</p> <p><b>【中途退学への対応】</b>            退学の兆候としての欠席率や、健康手帳に記載されている心身の不調について確認を行い、兆候の見える学生には面談を行ったり、スクールカウンセラーの紹介を行ったりしている。また、教務会議などで学生の状況を共有し、全教員が退学率の軽減に向けての意識を持つことができおり、R6年度の退学率は1.6%であった。</p>	<p>・担任が主となり、就職希望の事前調査を行い、進路状況一覧表を作成し、教員間で就職状況を共有し支援している。            ・本校は松下記念病院の付属校であり、7～8割の学生が就職を希望するため、パナソニック健康保健組合の人事部や看護部と連携し、就職ガイダンスを開催している。例年、学校に人事部や看護部の職員が来校し、ガイダンスを行っていたが、今年度は学生からの要望もあり、更に病院見学なども含めたガイダンスを開催した。卒業生から就職後の様子を聞く機会を設け、卒業後の社会生活を具体的にイメージできるようにしている。松下記念病院以外に就職を希望している学生にも、卒業生から話をきける機会を設けている。進学希望の学生の相談に応じ、卒業生や現役助産師につなぎ、進学へのイメージができるように支援している。また、認定看護師や専門看護師を学校に招き、学生自身のキャリアについて考える機会を設けている。</p> <p>・退学理由のほとんどは進路変更であるが、看護師になりたいというはっきりとした意志をもって入学する者がほとんどであり、退学する学生は非常に少ない。退学に至るまでには担任・副担任を主として本人や保護者と面談を行い、現状を把握してもらうことに努め、休学などの選択肢も提示している。面談内容は学年ごとに記録として残している。自身の今後について検討できる期間を設け、意思に変わりがないことを十分に確認しながら、本人と保護者の納得のいく方針が得られるまで対応を行っている。また、経過</p>

### 【学生相談】

外部よりカウンセラーに月 1～2回程度来校してもらい、個室完備のもとで希望する学生のカウンセリングを実施している。日程については学生が確認できるように掲示板に張り出し周知されている。相談内容については適宜学生の上承を得て教務に共有され、必要時は対策を検討するなどの対応をとっている。

また、学生専用のメールアドレスを設定しており、何か質問などがあればいつでも自由にメッセージを送れる状態になっている。

学年毎に窓口としては担任・副担任が相談役となっているが、あえて細かな役割は作らず、どの教員にでも相談できる状況をつくっている。

### 【学生生活】

3年間の学生生活が有意義なものとなるよう各種支援を行っている。パナソニック健康保険組合による奨学金貸付制度を設けており、返済方法も含めて学校ホームページやパンフレット、入学前のオリエンテーションでも紹介し情報提供している。また、松下記念病院からの特別奨学金制度を設け、安心して学生生活を送れるよう支援をしている。また、公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談があれば適切に対応している。

については教員間でも都度会議の中で学生状況として共有している。また、年度途中の復学者に対しては、個別のスケジュールを作成・共有し、必要に応じて補講や学習課題を提示し学生が不利益なく学習に取り組めるように支援している。

・学生が気軽にカウンセリングに向かいやすいように保健室の場所と環境を整えている。相談内容についてはノートに記録し、セキュリティゾーンである教務室内の鍵付きロッカーにて管理している。しかし、今年度はカウンセラーが年度途中から来校できない状況となり、毎月のカウンセリングの開催が行えなくなっている。変化する社会の中でも学業と自身の生活が両立できる、学生が安心できるための相談体制の構築が課題である。

・学生との連絡用に、学校・学生専用のメールアドレス設定に加え、グローバルシェアポイント(パナソニックのオンライン情報共有システム)を使用し、授業や課題のみに限らず、質問なども受け付けることが可能である。その他、教務室直通の電話番号を学生専用の番号として共有し、報告・連絡・相談を受け付けている。

・健保奨学金貸付制度の利用状況は 35%である。卒業後、母体病院に就職しない場合には一括返済が定められており、金銭的負担を強いられる学生もいる。必要時、個別での状況に応じて対応している。

・特別奨学生は1名から3名に増え、経済的なサポート体制が強化されている。

・家族背景の複雑化により、アルバイトと学業の両立、ヤングケアラー、健康上の問題等多種多様な課題を抱える学生が増え個別

学生の健康管理に関しては、年に1度、学校医による健康診断の他、感染症抗体検査を実施し、保健担当の教員が学生に対し予防接種を受けるよう支援している。必要時には松下記念病院との調整を図っている。学校には保健室を設置している。

学生寮の設置はないが、遠方から通学する学生が授業等に参加できるよう、時間設定の配慮などを行っている。

課外活動では友愛祭や研究発表など学生が主体となり活動する時間を適宜設けている。

#### 【保護者との連携】

保護者へは、入学時と宣誓式、及び年度末には保護者会を開催し、学生達の状況を説明するとともに教育活動へのご協力とご理解を求めている。また、ホームページ上にも保護者の模擬患者協力などを公募している。

緊急時の連絡が取れるように、入学時に学生から2か所以上の連絡先を確認している。

学年担当は必要に応じて成績や学生生活上の問題について保護者に電話連絡を行い、希望に応じて個別面談を実施している。面談を行った際には記録として残している。

今後も必要時に保護者との連絡を取りながら、学生が安心して学習活動に専念できるように支援する必要がある。

#### 【卒業生・社会人】

卒業生の支援として、同窓会活動の支援、卒業生の母校訪問を受け入れている。また、本校の教員が連携病院である松下記念病院で卒業生のフォローアップ研修に参加しサポートを行っている。今後も、病院と学校でシームレスな教育ができる

対応が必要である。面談や、情報提供、実習施設への調整等を行い、学業継続への支援を行っている。

・また、看護学生として、自らの健康管理に努める意識を高めるためにも健康診断の結果や予防接種履歴の管理なども学生に自己管理していくよう指導をしている。

・実習施設との制約もあり友愛祭など学生企画の催しものを実施することが以前に比べ困難な状況にあった。学生から宿泊研修の再開の要望もあり、次年度には再開を目指し準備している。授業や実習で多忙な毎日の中で学生同士が楽しめるよう、企画していく。

・今年度より入学前説明会や入学式の保護者の参列を再開した。

・保護者からの問い合わせがあった場合には適宜対応をしており、理解いただいている。

・連携強化を目指して、令和7年度より入学時に保護者を中心に保証人を立てるための準備を行ってきた。

・毎年卒業時まで各学年で数名の同窓会委員を選出している。

・ホームカミングデーという卒後1年目の看護師を当校に呼

ようにサポート体制を継続していく。社会人学生への支援は入学前に履修した科目の単位認定を行っている。卒業後のキャリアアップを目指した際の相談の受け付けや成績証明などは、適宜対応している。

んで同期や教員と現状を共有する機会を設けている。松下記念病院に就職した卒業生についてはフォローアップ研修と同日になるよう調整し、また他の医療機関へ就職した卒業生については、事前に就職先と連携をとり、参加しやすいよう調整を図っている。今年度は5月と9月の2回実施し、5割程度の卒業生が参加した。当校の卒業生が他学校の卒業生を連れて共に参加するなど、学校としても松下記念病院に就職した仲間として受け入れている。参加者を対象としてアンケートを実施し、この結果をもとに現行の教育活動に活かすための準備をしている。

- ・卒業生が看護技術等の演習時に患者役やサポート役として参加し卒業生自身のキャリア形成やスキルアップにつながるとともに身近なモデル像の形成に寄与している。

- ・社会人経験がある学生に対しては個別で面談をする際などで適宜状況を把握し対応している。

## 基準6 教育環境

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【施設・設備など】</b>            関係法規に定められた施設・設備・教材を整備している。経年劣化した教材については、優先順位を決め、入れ替えや修理を行い、教育活動に支障がないようにし、最善の対応を図っている。また、Wi-Fi環境の充実を図り、オンライン授業を可能にしている。図書に関しては、卒業生も図書館を利用することが可能である。施設点検に関しては、専門業者による2回/月巡回点検・報告を実施している。防犯に関しても、玄関がオートロックになっており、夜間は機械警備が行われている。</p> <p><b>【学外実習・インターンシップ等】</b>            関係法令に則り、学外実習(以下、臨地実習)を行っている。臨地実習は、学生の看護実践力を育成するために重要な科目であり、学修成果の向上を目指して、実習環境を整えている。実習要綱にて実習の目的目標を立て、評価基準を設定し明確にしている。            実習施設は、実習指導者の配置を始め看護基準の作成・活用、看護職員の継続教育の実施、看護用具の整備など実習施設よしての条件を具備することが必要であり、各実習施設と調整を行い、よりよい学びが出来るための実習施設の確保に努めている。            また、実習指導の質を向上させるには、実習指導者の理解と</p>	<p>・実習室:学生 4 人に 1 人のベッドを設け、実習病院である松下記念病院と同じ様式にし、スタッフステーションを備えている。また、在宅看護実習室には、リフトなども常設している。</p> <p>・シミュレーション教育の充実を目指して、多職種連携ハイブリッドシミュレータやフィジカルアセスメントモデルなどのシミュレータ、心電計などを常備している。</p> <p>・今年度、学内での母性実習が行えるよう、1 室にベッドやその他の物品を設置し母性実習室とした。</p> <p>・図書室の蔵書数及び雑誌の種類は法令の規定以上に揃えている。</p> <p>・2030 年開院に向けた建て替えて松下記念病院に隣接し、バリアフリーなどユニバーサルデザインに加え Panasonic グループとして環境にも配慮した建築物に向け検討を開始している。</p> <p>・松下記念病院での臨地実習指導者会は本年度より主任会と合同運営となり、各部署の主任と情報を共有し、附属の看護専門学校として、共に看護学生を育成することを目指した。運営担当者をあらかじめ決め、その担当者達と年間目標と予定を決め、「看護を学べる臨地実習指導」にする為に、お互いがどのように学生に関わればいいのかを検討している。主任は実習指導者とこれまでよりも密に関わり、臨地実習の現状把握に努めるよう意識に変化が見られている。主任と教員の連携を図ることで、実習指導者となる看護師の成長発展も目指している。</p> <p>・その他、外部より講師を呼び、臨地実習指導者や当校教員が「教える」ということを学びあう研修を行っており、学生や新人への</p>

育成が大切と考え、松下記念病院においては毎月、実習指導者会を行っている。また、当校教員も実習指導者用の講義を実施(2回/年)し、記念病院の指導者の育成を看護部と一緒にやっている。さらに、教育の本質を考える研修会を合同開催し、臨床指導者と教員と一緒に学ぶ機会をつくっている。インターンシップについて、企業や医療機関等から案内があれば、学生に周知している。

#### 【防災・安全管理】

防災計画・消防計画、マニュアル整備については、消防計画を作成し、消防署へ届け出を行い、看護学校災害時対応マニュアルも作成し、運用している。消防署・業者の定期的な校内点検を行っており、管理が必要な物品は施錠管理にて安全管理に努めている。また、パナソニック健康保険組合が運用している安否確認アプリにも全学生と教職員が登録し、定期的に安否訓練を行い、返信の訓練も行っている。

また、学生・教職員を対象に毎年、避難訓練をおこなっている。学生には、入学のしおりを使用して、災害時の備えや避難場所についてのオリエンテーションを実施している。

さらに、松下記念病院では、学生の避難食・水分も確保されている。学内では、学生それぞれに水分や食糧の確保を行ってもらうように周知している。また、学生は、総合保障制度に加入し、登下校時や学内・実習先での障害・賠償・感染等の補償対応が可能となっている。

コンプライアンスやハラスメントに関しては、パナソニック健康保険組合の「リスクマネジメント・コンプライアンス推進」に則り、ハラスメント研修の実施やホットラインの周知徹底を実施している。

教育のあり方について、自己を振り返り、学ぶ機会を設けている。

・防災に関してオリエンテーションや、災害に関する科目を1年生から設定し、災害を身近なものとしてとらえ、普段の生活から生命を守るための災害への備えを意識できるようにしている。防災計画をふまえ、教職員、学生が防災への意識をもって日々行動できるように年間計画を作成している。

・教員も病院の災害ワーキンググループに参加し、病院と連携をはかっている。病院のBCP訓練の被災者役として学生が48名参加し防災意識の向上の場となった。

・また、健保の準職員として学生も一緒に、年に3~4回、安否メール確認訓練を実施している。

・毎年4月に学生や新教職員にむけハラスメント研修を実施し、健保を窓口としたホットラインも開設している。

## 基準7 学生募集と受け入れ

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【学生募集活動】</b></p> <p>本校は、事務、教員、学生からなる広報委員を置いている。オープンキャンパスやパンフレット、ホームページ等の広報活動においては、学生の協力度が高く、学生の雰囲気を受験生確保につながっている。学内開催のオープンキャンパス、放課後オープンキャンパスを毎年定期的で開催している。状況に応じて、希望者には個別に学校案内も実施している。</p> <p>募集活動に際しては、入学希望者に公平に情報提供ができるように心がけており、タイムリーに情報提供できるように HP の充実を図ることを継続している。学校を対外的に周知するため今年度は SNS の更新に力を入れている。また、教職員による高校訪問を継続し、情報交換を行っている。</p> <p>本校は、将来看護師としての職業選択に直接結びつく教育機関であることから、業者や高等学校の依頼による出前講座、進路相談会に参加している。今年度は、受験に繋がりそうな依頼を選択し参加し、職業としての看護師、看護大学との違いや本校の特徴などを説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松下記念病院の経営企画室との連携(会議、分析、相談)を行い、SNS 戦略として LINE や Instagram を活用し、広く松下看護専門を周知できるように活動を継続している。オープンキャンパス参加者へのアンケート結果から、SNS を閲覧して参加を決めたとの回答があり、学生募集につながっていることを確認した。</li> <li>R6年度は、業者主催の学校説明会に13件参加した。今年度は、より効果的に募集活動が可能な説明会を精選し参加した。</li> <li>・オープンキャンパスの参加者の受験率約 54.7% (令和5年50%、令和4年45%)であり、在校生や卒業生と関係する受験生も多いのが本校の特徴である。R6年度は、対面で体験型のオープンキャンパスを4回と放課後オープンキャンパスを実施した。また、個別に学校見学を実施した。その結果、参加者総数は201名保護者107名(令和5年度303名、令和4年度286名)であった。</li> <li>・今年度よりオープンキャンパス時に病院見学を導入し、入学後の主な実習病院、さらには主な就職先である病院の雰囲気や学校との連携を実感してもらええる企画とした。参加者の大多数はもともと第一志望で当校を考えているが、導入によって入学志望につながった参加者もあり、引き続き病院と連携して、入学志望者の獲得に努めていく。</li> <li>・進学情報企業と連携し、オンラインのサイトで個別相談の窓口を開設した。個別相談参加者はいずれも出願につながっている。</li> <li>・今年度は、これまでの受験者数や入学者受験者の獲得に向け、指定校推薦校数を21校から25校に増やした。また、募集要項を刷新し、指定校推薦の評定平均を変更した。さらに、教員が個別</li> </ul>

### 【入学選考】

入学選考にあたっては、入試形態毎の募集要項の選考方法に基づいて実施している。また、アドミッションポリシーに則って、筆記試験の成績と面接による評価を総合的に判断し、入試判定会議において学則、入学試験規定に基づき合否判定を協議し、公平に審査を行っている。入学選考についても毎年、教職員会議および学務会での見直しを行っている。入試に関するデータは蓄積管理し、学生指導に活かしている。

に高校訪問を行っている。指定校推薦校数が増加した結果、指定校推薦校からの受験者は増加したが、受験者総数は、前年度より減少している。令和7年度の入学予定者は定員の40名を確保している。

・高校訪問時に高校教師向けの授業見学の案内も行ったが、実施には至らなかった。

・ホームページは随時更新し、パンフレットは今年度、新しいものに変更した。

・アドミッションポリシーに則って、指定校入試、公募入試、AO入試、一般入試を行っている。公募入試、一般入試では受験の優遇措置について、英検準2級だけでなく、英検準2級に相当するTOEIC、TOEFLや漢検2級を設けた。高校教員や保護者からは好評であり、数名の出願があった。(令和5年5名→令和6年3名)

・入試の機会を増やすために、来年度はAO入試を1回増やし、定員に満たない場合は一般後期試験を実施する予定とする。

・入試形態に関しては、在校生の意見を取り入れながら改善をはかっている。

・また、入試時の状況と学業成績を関連づけながら、入学者受け入れ基準を検討するとともに、学業への質保証への影響を検証し、学生指導に繋げるように努めている。

・面接時のポートフォリオの活用など、特色ある入試形態については、継続をしている。また、左記のように公平、厳選に審議し、決定しているが、入試ごとの合格点、合格者数、筆記試験と面接の割合などの公表はしていない。開示を求められた場合、内規に基づいて行うようにしているが、前例はない。

・現状で留学生はいない。今後留学生等合理的配慮を有する学

**【学納金】**

学納金や在学中に必要な費用については、募集要項にも詳細を明示するとともに、保護者会等でも施設整備費や実習費などの使用用途を説明している。授業料は、納付時期を入学後にしているため、入学辞退者への問題が発生しないようにしている。

生の受け入れについては関係省庁や設置母体の指示を受けつつ準備中である。

- ・4か月毎の郵便局からの引き落としにより、納付遅延は少なく、R6年度も問題は発生していない。
- ・今年度は、R8年度生からの Web 出願導入を目指し、検討に入った。

## 基準8 財務

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【財務基盤】</b>            本校は、パナソニック健康保険組合を設置者とした学校運営を行っており、学校単独では年度計画予算に基づき収支管理を行っている。財政基盤においては、パナソニック健康保険組合の安定した財務基盤により、入学希望者の所得状況に加え、老朽化校舎への修繕費に支出が必要な状況もあるが、学校単独の収支状況には影響なく運営が行える状況にある。</p> <p><b>【予算・収支計画】</b>            予算編成については、パナソニック健康保険組合のひとつの事業部門として位置づけられており、中長期的計画に基づき方針・計画を立て、運営方針に基づいた計画と合わせて整理する仕組みとなっており、教育目標などの学校運営方針と整合性を保っている。</p> <p><b>【監査】</b>            会計監査等についても、パナソニック健康保険組合の経営管理部が主管し、パナソニック本社により定期的な監査を受けている。</p> <p><b>【財務情報の公開】</b>            健康保険組合において財務諸表などの公開については積極的な対応が行われていない状況にあり、その一環として広く公表を行っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の財務については、パナソニック健康保険組合のひとつの事業部門として管理されており、学校という特殊性から収益部門としてではなく、人材確保、人材育成の役割を担う部門として評価され運営している。一方で、学校の独自性も保ちながら、学校運営で必要となる事業計画上の支出については、学校の運営会に委任されている。</li> <li>・会計に関する規定はすべてパナソニック健康保険組合として対応している。そのため、予算管理、実績管理についても一定のルールとチェックの元に日常管理されており、老朽化による突発的な修繕費や、DX 化に伴い新たな支出などの状況は絶え間なく生じるものの、特に大きな問題なく運営されている。</li> <li>・今後、将来的な校舎建て替えに向けて、財政基盤の強化が必要である。</li> <li>・今年度電波基地局を屋上に設置したため、一部安定した財源の確保ができた。</li> </ul>

## 基準 9 法令遵守

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【関係法令、設置基準等の遵守】</b>            関係法令及び専修学校設置基準、保健師助産師看護師法や同法施行規則・指導ガイドラインに基づいた学校運営が行われており、毎年大阪府及び私学課に報告している。            学校運営に必要な規則・規定等も整備され、教職員は日々の運営に関してこれを遵守するように努め、学生にも関係する規定を遵守するよう徹底している。</p> <p><b>【個人情報保護】</b>            パナソニック健康保険組合の「パナソニック健康保険組合プライバシーポリシー」に基づき個人情報保護の実施を行っているが、日常業務においての個人情報の取り扱いについては、個人の責任に任されている部分も多いため、教職員全員に個人情報保護についての啓発と周知徹底を継続していく。            学生の実習などで得る看護の対象者の個人情報管理は、実習要綱の規定により定め、実施を徹底している。また、新カリキュラムから「情報リテラシー」を3年次から1年次に変更し、早期に情報管理への意識づけを行っている。</p> <p><b>【学校評価】</b>            専任教員・非常勤講師の指導力・資質向上のために授業評価に取り組んでおり、より充実した授業となるように活用している。            また、毎年度、学校評価規定に則り、学内で組織した学校評価委員会を中心とし、自己点検・自己評価を実施している。その</p>	<p>・本校はパナソニック健康保険組合立であり、その事業計画に則り、組織の体制を整えている。            ・法令遵守を基軸とした上で、教育目的・目標を念頭に置き、学生にとってより良い教育活動が提供できるよう適宜規則・規定を見直し、学校全体で協議している。</p> <p>・パナソニック健康保険組合立である本校は、パナソニック健康保険組合の「パナソニック健康保険組合プライバシーポリシー」に基づき、個人情報管理を徹底している。            ・実習の主施設である松下記念病院で新しいカルテが導入され、学生個々に ID が発行されたが、情報管理を自分ごととして認識にできるよう引き続き促し、今後も学生だけでなく、教員も含めた情報管理を徹底できるよう、適宜意識づけを強化していく。            ・広報活動においても、本人の許可を得た上で情報リテラシーを遵守し、SNSに掲載している。</p> <p>・授業アンケートの改変を実施し、“授業によってももの見方、考え方が発展した”ことに対する数量評価の根拠がわかる自由記述項目と感想・意見を記述する項目を作成した。            ・授業アンケート結果は、全講師に報告を行い、疑問点への対応を適時実施している。自由記述により、次年度にむけての授業改</p>

<p>結果に基づき、学校関係者評価を実施し、学内だけでなく、学外からも、自校の教育についての示唆を得る機会を設けている。評価結果はホームページ上に公開し、広く社会へと公表している。</p> <p><b>【教育情報の公開】</b>  学校の概要や教育内容、自己点検・自己評価、学校関係者評価の結果をホームページ内に公開している。また、松下記念病院と連携して地域住民向けイベントに参加し、学校教育の情報を開示するとともに、SNS を通じて広く教育活動を公開している。</p>	<p>善の根拠が明確となるため、講師会でも意見交換できるようにしていく。</p> <p>・今年度は 8 月に重点目標、各評価項目に対する中間評価会を実施し、後期の実践に向けての取り組みの進捗状況の共有を行った。</p> <p>・当校は、所在地の市の唯一の看護専門学校であり、学校の現状を学生・保護者・関連業界・地域の方々に広く公開することは、学校への理解を深め、地域の方々の健康な暮らしに貢献するためにも重要である。そのため、守口市民の健康促進を目的としたフィールドワークや高齢者健康教室の開催、勤労者向けの健康提案、ボランティア活動など、地域住民との交流を通して地域連携している。</p>
---	---

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総評	特記事項(特徴・特色)
<p><b>【社会貢献・地域貢献】</b>            大阪府が大阪府看護協会に委託実施している実習指導者・専任教員対象の講習会や他の看護専門学校講師として教員を派遣し、例年の大阪府看護教員養成講習会、環太平洋大学に加え、人間総合科学大学の教育実習生の受け入れを行っている。また、看護教育全体の質の向上に寄与するため、当校の教育活動を雑誌や講演などで広く周知をしている。</p> <p>守口市・門真市の地域における小・中学校でのキャリア教育を実施し、看護師志望者の獲得につながるよう職業講話などの活動をしている。教育課程においても、松下記念病院を中心とした地域を知り・地域に貢献できる看護師の育成を目指し、3年が経過した。学生達が地域の人々と触れ合うような教育課程を実施し、病院や施設にいる看護の対象だけでなく、地域で暮らす様々な年代の方々から、現状を教えていただき、広い視野で健康や生活を捉える機会を得ている。</p> <p><b>【ボランティア活動】</b>            学生のボランティア活動では、新たな知識や協同、コミュニケーション力など多くの学びを得られると考え奨励している。各学年や教員のボランティア委員及び広報委員を中心に、実習関連施設や地域からの依頼や募集を統括し、多くの学生が参加できるよう継続的に活動している。</p>	<p>・看護師養成校という特色からも教員・学生ともに、社会貢献の必要性を常に意識し、積極的に取り組むこととする。1973年の開校以来、50年にわたり現在地である守口市において学校を運営しており、市役所、小中学校の校長会、教育委員会、保健所、老人クラブ等と交流を図り、さらなる信頼を深める関係づくりを目指したいと考える。</p> <p>・R6年度は、当校の教育課程の連関や、教育実践に関する雑誌投稿(7件)に加え、学会発表(1件)などを行った。また、大阪府看護教員養成講習会の実習生2名、環太平洋大学(IPU)の実習生1名、日本看護学校協議会主催の中堅教員スキルアップ研修の実習生15名を受け入れるとともに、日本看護学校協議会主催の新任看護教員研修のファシリテーターを行った。それ以外にも他の看護専門学校(2校)からの、教育活動に関する教員研修を受け入れた。教員インターシップの受け入れも行った。</p> <p>学校で就労継続支援施設(5施設)の商品(クッキー、パン、お弁当等)の販売を受け入れている。</p> <p>・令和4年度から、松下記念病院・経営企画室との情報共有により、市民まつりや市民向け公開講座に学生ボランティアとして参加しており、令和6年度は、松下記念病院のオープンホスピタルやはーとぴあへ音楽会に参加した。また、授業を通して、守口市老人クラブ連合会(約40名)に健康教室を実施し、守口市にある従業員50人以下の事業所へよりよく働き続けることができるための健康提案を実施し地域貢献を行った。</p>

	<p>また、寺内さくらこども園はみがき教室ボランティア(2年生)、さつき学園さつきワイワイ商店街職業体験ボランティア(2年生)、スポーツメディカルラリー学生チームで参加、さつき学園小学生3年生(保護者も含む)から職業インタビューと学校案内ボランティア(教員)。</p> <p>松下記念病院で実施された災害訓練に患者役で1、2年生が48名参加した。</p> <p>守口・門真保健所の感染対策部と連携し、守口市の実情を理解したうえでの地域貢献を来年度導入していく予定である。(今年度は調整)もともと実習関連施設とのニーズや連携において、信頼関係も厚いため「守口・門真地区」においては、特に社会貢献できるように継続する。</p>
--	---